



SNET台湾 みんなの台湾修学旅行ナビ
https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/311/



エリア

台北市

テーマ

歴史

建築

交通

台北機廠 鐵道博物館園區

台北都心に今も生きる鐵道工場跡

台北機廠は、日本統治時代の1935年に完成し、2013年まで使われた鐵道工場です。台北メトロ南京三民駅と国父紀念館駅のほぼ中間に位置し、すぐ南側には旧タバコ工場をリノベーション(改修)した松山文創園區や、台北101やデパートが広がる信義エリアがあります。2004年に工場機能を他の車両基地へ移転することになり、跡地の再開発が検討されましたが、保存を望む声が多く、2015年に工場跡全体が国定古蹟に指定され、保存活用されることが決まりました。2025年に博物館としての開館を目指し、現在は各部の修復や資料の整理作業が行われていますが、ウェブからの事前予約で見学ができます(原則、水・土曜日)。時間帯によっては、日本語のガイドをお願いすることもできます。ただし工事の都合によっては見学できない場合もあるので注意が必要です。

学 び の ポ イ ン ト

1.

「時代」を動かす鐵道を支えた場所

鐵道は世界を大きく変えましたが、台湾も鐵道によって大きく変わりました。清朝時代、台湾を担当する知事であった劉銘伝は、洋務運動の一環として台湾を縦断する鐵道を計画し、基隆から台北、その後新竹までが造られました。このとき、現在の台北駅西側に台北機器局と呼ばれる兵器製造や鐵道車両整備をする工場が設置されました。この工場は日本統治時代にも引き継がれ、台北鐵道工場になりました。1920年にはその東側に鐵道部の庁舎(現・国立台湾博物館鐵道部園區)が建設されます。鐵道の発達とともに、台北鐵道工場が手狭になったため、1935年に現在の松山へ移転しました。「東洋最大」とも称された当時最新の現代的なこの工場は、戦後の中華民国政府に引き継がれ、2013年まで鐵道工場として使用されました。約80年にわたって、台湾の鐵道を支えた工場でした。

2.

80年におよぶ工業、労働の歴史を物語る貴重な場

将来的には、18ヘクタールを超える広大な土地に、工場時代そのままの設備を生かした博物館がオープンする予定です。世界には鐵道を主題とする数多くの博物館がありますが、これだけ大規模な工場跡をそのまま博物館とする例はほとんどありません。それだけに、博物館開館前の現在でも見学することができるのはとても貴重です。清朝時代から残されていると考えられる大型機械から、戦後アメリカの支援を得て導入された大型クレーンなど、機械や工具からも、台湾がこの百年間に経験した工業的な発達を見ることができます。またタイムカードやスローガン、ポスター、さらにはボードゲームなどから、工場の労働者の生活や労働の様子を身近に感じることもできます。建築物が、日本統治時代と戦後の2つの時代にまたがって建設されていることから、工法や設計の違いを見ることができます。なかでも、労働者のために造られた大浴場は、ローマのテルマエを思わせる優雅なもので、数多くの映画やドラマ、PVのロケ地として利用されてきました。様々な角度から、台湾や世界の歴史を振り返ることができる、いまなお生きる工場跡です。